



## 『強い気持ち』

北海道  
砂川錬心館  
小学6年生

岡 颯 希

私は三姉妹の一番下です。姉二人が剣道をしていたので、2歳の頃から母に連れられて道場に通っていました。剣道を始めようになったのは幼稚園の年長のころからです。

私の家族は、みんなで剣道をしています。

稽古は週4回していて、基本稽古は子ども同士やりますが、先生方とやる地稽古はお父さんやお母さんとやる時があります。緊張しないで思いきりできるので楽しいです。

二人の姉は、高校1年生と中学2年生です。小さい頃からずっと一緒にやってきて、姉妹けれども、道場では先輩です。稽古や試合で悪いところを言われることもあります。わからないところを教えてくれたり、困っているときはいつも助けてくれます。家族で剣道をやっている良かったと思うところは、つらくてくるしい稽古の時、がんばっている所をいつも近くで見えてくれることです。

道場の先生には剣道のことだけでなく、学校生活、普段の生活のことも言われます。特に言われることは、「あいさつ」をすること、「返事」をすることです。朝起きた時には、家族に「おはようございます」学校に行く時には、「行ってきます」帰ったら、「ただいま」ご飯を食べる時には、「いただきます」終わったら「ごちそうさま」と感謝の気持ちをこめた「ありがとう」あいさつをすることでお互いに良い気分になります。剣道で身についた習慣が、学校や、家庭でも役に立っていることです。

今年度は、6年生のリーダーとしてチームを引っ張っていく立場になりました。私がリーダーになった年から、足こしをきたえるために、稽古前と稽古後に雑巾がけをやるようになりました。

始めは雑巾がすべらないし、袴のすそがひっかかって道場を一往復するのもやっとなりましたが、今は体力もつき三往復できるようになりました。

私が試合にでるようになったのは3年生からですが、今まで勝ち負けを気にしないでやってきました。しかし6年生になって、試合で緊張することが増えてきました。団体戦では絶対2本勝ちしてつなげなければと思って戦い、代表決定戦では、自分が勝たないとチームが負けてしまうと思ったりして、プレッシャーを何度も感じました。

稽古は一生懸命頑張っていますが、試合になると、自信が持てなくて稽古の時の一本が打てません。「もっと自信を持て」と先生に言われます。しかし、試合前になると、「負けたらどうしよう」と弱気な気持ちになります。赤胴大会個人戦で、一回戦敗退。先に一本取った後に、相手の勢いに負けてしまい、二本同じ面を打たれてしまいました。勝ちたい気持ちがあいてよりもなかったんだなあと思います。気持ちで負けたのだと先生や家族に言われました。今まで、負けた時のくやしさを、周りからへこむほど言われたことがありませんでした。いつも、試合の時に相手が強かったら負けてもしようがない、頑張ればいい、と弱気な気持ちでいました。でもこの試合で相手から学んだことは、最後まであきらめず、強い気持ちで戦うことを教えてもらいました。この試合で負けたことは、これからの自分の剣道を良いものに変えてくれると思います。

これからも、苦しくてつらい稽古が続くと思いますが、気持ちを強く持って、それ以上に楽しい思い出をたくさんつくって、自分らしい剣道が出来るよう日々の稽古をがんばりたいと思います。